

令和 8 年度おかやま協働のまちづくり賞応募用紙

令和 8 年 8 月 29 日

岡山市長 様

応募者代表 団体名 一般社団法人日本教育DX推進協会

氏 名 笹埜 健斗

令和 8 年度「おかやま協働のまちづくり賞」に応募します。

募集テーマ：「スポーツで広がる協働のまちづくり」

取組の名称	県北の熱を岡山市の日常へピックアップボールで育てる多世代・担い手循環
取組の概要 インターネット投票を行うサイトにそのまま掲載します。 今年のテーマとの関連がわかるよう、目的及び取組概要、アピールポイントを 300 字（句読点含む）以内に記載してください。	美作大学を核に、岡山県内へピックアップボールを根付かせ、プレー人口と担い手を育ててきた県北の実践を、JEDPA との協働で岡山市へつなぐ。元全米チャンピオンから学んだ世界基準の技術、初心者向けガイドライン、学生指導、けが予防・地域おこし研究、AI フォーム測定を組み合わせ、運動に自信のない人も安心して参加し、交流し、再参加し、やがて次の初心者を迎える側へ育つ循環をつくる。上達・安全・つながり・継続を測り、改善する岡山発のウェルビーイングスポーツモデルである。
成果・効果 取組を通じて得られた成果や、解決した社会課題の状況、また関連した地域への効果や変化などを書いてください。	【岡山に根付かせた実績】2017 年、元全米チャンピオンを招き世界基準の技術を地域へ。美作大学部は 2018 年に 7 名で発足し、2021 年に競技部へ昇格、現在 25 名。全国・海外大会での優勝者を輩出しながら、資格講習、地域練習会、小中高生の受入れを継続し、県内のプレー人口増加を主導してきた。 【次の社会実装】本取組では初心者向けガイドラインを作成・配布。ピックアップボール学会設立準備委員会で、けが予防と地域おこしとの接続を研究調査している。 【協働の価値】美作大学部の実践知と、JEDPA の岡山市内拠点・教育 DX・効果測定を結び、誰もが安全に続け、次の担い手へ育つ循環を岡山市の日常へ広げる。

〔様式 1〕 協働による社会課題解決の取組の内容

取組の名称	県北の熱を岡山市の日常へーピックルボールで育てる多世代・担い手循環	
テーマとの関連	初心者が短時間で楽しめ、年齢・体力・競技経験の差を越えて同じコートに立ちやすいピックルボールを媒介に、県北で培った普及・指導の実践を岡山市へ広げる。多世代交流、健康づくり、大学の専門性を生かした地域貢献、学生の担い手育成を一体で進めるため、募集テーマに直接合致する。	
取組の目的・目標	運動に自信がない人ほど一人では参加しにくく、参加しても継続や地域のつながりに結びつきにくい。また、県北で育った技術・担い手・普及ノウハウが県南の日常的な地域活動へ十分届いていない。そこで岡山市内に、①安心して試す、②世代を越えて交流する、③再参加する、④次の初心者を迎える側になる、という循環をつくる。初年度は参加・継続・安全・交流・担い手の 5 指標を測り、再現可能な運営モデルを整える。	
取組の内容	【岡山市内での実施実績】2026 年 4 月に JEDPA 内にピックルボール総研を設置。岡山市内を含む県内チームへのフィールドワークと量的調査で、普及・参加継続上の課題を特定した。7 月、岡山市を含む県内の入門者向け「ピックルボールハンドブック」を作成・配布。8 月 5 日、岡山大学津島キャンパスで体験会（14 名）を企画・運営・指導した。調査と実践を体系化し、9 月に日本初となる「ピックルボール白書」を公開予定（当団体調べ）。 1 対象 岡山市内の学生、社会人、親子、高齢者、運動初心者。1 回 15～30 名程度から始める。 2 活動内容・実施方法 (1) 岡山市内で初心者向け体験・交流会を継続開催する。 (2) 作成・配布済みの初心者向けガイドラインを用い、安全説明、基本動作、交流ゲーム、振り返りを標準化する。 (3) 美作大学部の学生・教員が世界基準の技術を基礎に競技・普及指導と安全管理を担い、JEDPA が会場、企画、参加導線、情報発信を担う。 (4) 希望者には AI によるフォームの振り返りを提供する。結果は順位づけではなく上達支援とけが予防に用いる。 (5) 参加・継続・安全・交流・担い手の 5 指標を記録し、四半期ごとに運営を改善する。 3 工夫・特徴 県北で積み上げた 8 年の実践、元全米チャンピオンから受け継いだ技術、ガイドライン、学術研究、AI 測定を一つにつなぐ。スポーツを『人が出会い、教わった人が次の初心者を迎える社会技術』として設計する。 関連 URL : https://jedpa.org/	
取組の実施期間	基盤形成：2017 年～／本協働：2026 年 8 月～	☒ 継続予定
今後の活動展開など	岡山市内で四半期ごとの体験・交流会を定着させる。初年度は各回 15～30 名、再参加率 40%以上、学生・地域リーダー 6 名を目標とする。負傷・ヒヤリハット、年代構成、新たに会話した相手、次回参加意向も確認し、安全性と交流の質を改善する。学校・企業・地域団体との共同開催へ広げ、ガイドラインと評価方法を公開し、市内複数拠点で再現できるモデルにする。	

協働による 効 果	美作大学部は、元全米チャンピオンの指導を起点に、競技者育成、資格講習、地域練習会、子ども受入れを継続し、岡山県内のプレー人口と担い手を育ててきた。JEDPA は、岡山市内の拠点、教育 DX、研究、効果測定、情報発信を担う。両者の協働により、県北の実践を県南へ運ぶだけでなく、ガイドラインとデータに変換して改善・再現できる。その結果、初心者への安心、学生の成長、世代間交流、地域の担い手育成を同時に生む相乗効果が期待できる。	
※協働団体が分野にわたっていることや、各団体の関わりやの深さも評価の対象となります。 ※足りない場合は欄を追加してください。	団 体 名	一般社団法人日本教育DX推進協会（JEDPA）
	団体種別	☒ 市民活動団体
	役 割	代表団体。岡山市内の実施拠点、全体企画、初心者向けガイドライン、参加導線、AI フォーム測定、5 指標による効果検証、情報発信を担う。
	団 体 名	美作大学ビッケルボール部
	団体種別	☒ 教育機関
	役 割	世界基準の技術を基礎に、競技・普及指導、安全管理、学生リーダーの育成と派遣、資格講習・地域練習会・子ども受入れの実践知を担う。